

まえがき

中国は現在二種類の「過渡期」に直面している。第一は国内的な過渡期であり、1997年2月の「改革開放の総設計師」鄧小平の死去によってもたらされた。江沢民総書記を「核心」とする中国共産党指導部は、7月の香港返還、9月の党大会、10月の江総書記訪米とポスト・鄧体制を固めつつある。第二の過渡期は国際的な性格のものである。97年7月のタイのバーツ暴落に端を発する東南アジアの通貨危機は、年末には韓国、日本にも波及し、アジアの通貨危機に対する歯止めとして、中国の人民元と香港ドルの防衛に大きな期待がかけられている。アジア経済の低調は右肩上りの経済成長を政権安定の前提としてきた中国にとって大きな環境変化である。

こうした状況の中で中国はどのような方向をとろうとしているのであろうか。5年に一度開かれる中国共産党全国大会は、中国の政治と経済の大きな流れを把握するための貴重な機会である。そこでは、中国を実質的に統治する中国共産党の指導体制が決定されるとともに、過去5年間の総括と今後5年間の政策の大枠——道路地図（ロードマップ）——が示されるからである。

ロードマップは実際の地理的条件と不可分である。どこに山があり、川があるかでとるべき道筋は違ってこようし、進行速度も変化する。状況によっては目的地に着く時間を変えなければならないし、目的地そのものを変えることもあろう。中国指導部は変転極まりない環境の中を、13億人という巨大な乗客を乗せて走り続けなければならないのである。

本報告書はこうした中国のロードマップを提示することを目的としている。中国という巨大なバスが21世紀初頭までに「安定した中程度の発展段階」にまでたどり着くためにどのような道を辿ろうとしているのか、そこにはどのような障害が待ち受けているのかを客観的に分析することを心掛けた。我々の地図は、政治、外交、軍、経済、社会という中国地勢の基本的な項目を含んではいるものの、極めておおまかなものであり、台湾問題や民族問題等地図に乘せられなかった項目も多い。読者諸氏のご批判を仰ぐとともに、次の機会に期する所存である。

1998年2月

編者